



姫路市

# 株式会社 香寺ハーブ・ガーデン



## 私たちの思い

私たちは人と自然の共生を理念に、ハーブを通して世の中の役に立つことを実践します。植物やハーブがもつ力を真摯に研究し、人の健康と幸せに貢献します。

## 私たちのこだわり

「高度な研究・開発により、安全・安心な製品は生まれる」を掲げ、大学や企業と積極的に共同研究を重ねています。野菜から抽出した不凍タンパク質の商品化や化粧品素材の開発で成果を上げてます。

## おもな作物

ハーブ全般およびそれらを素材とする化粧品。おもに冷凍食品の品質保持剤に活用できる不凍タンパク質など。



## 植 物の力ですべての人をHappy!に

### 農業6次産業化の先進として地域活性化にも貢献

1984年に開園した研究開発型ハーブ園から35年。「香寺ハーブ・ガーデン」では、創業当初から一貫して「謙虚に自然から学ぶ」姿勢を貫いています。香寺町のハーブ園のほか、夢前町では約3haの遊休農地を転用してハーブの生産・加工を手掛け、2016年には地元野菜や玄米などを使った食養生レストラン「目緩々(しゃかんかん)」をオープン。ハーブを素材に6次産業化を進めています。また、過疎化で廃校となった同町内の山之内小学校の校舎を活用し、「夢前工場」としてハーブの研究開発、加工場に転用。現在、姫路市地域再生計画「こころとからだ農業を元気にする“ハーブの里山プロジェクト”」の主軸メンバーとして貢献しています。



## 外 観



## 働く人の

### INTERVIEW



田邊 佳弥さん(25歳)

神戸大学農学部卒業。学生時代に聴いた福岡社長の「バイオ産業論」講義が縁で2016年入社。化粧品の研究開発、製造部門を担当しています。少人数なので責任ある仕事を任せてもらっています。ハーブの可能性をさらに研究し、自分が開発した新商品を誕生させたいです。



西内 梨乃さん(22歳)

千葉大学園芸学部を卒業し、2019年入社。昨年「目緩々」を訪れて、当社の「人と自然の共生」という理念に共感しました。現在「目緩々」で接客や配膳、調理補助を担当しています。お客様の喜ぶ顔や感謝の言葉を励みにがんばっています。

## INTERVIEW OF TOP



“ハーブ”で心身ともに健康な社会づくりに貢献するために  
“女性のチカラ”を積極的に活用しています

株式会社 香寺ハーブ・ガーデン 代表取締役 福岡 譲一さん

ハーブ化粧品の開発や収穫したハーブの加工、食養生レストランの運営などにおいて女性の視点や能力は欠かせません。当社では女性に活躍してもらうために育児休暇や短時間勤務など、それぞれの事情に応じた雇用・勤務形態で対応しています。長く安心して働ける職場づくりをしていきたいです。

所在地 〒679-2155  
姫路市香寺町矢田部689-1  
電話 079-232-7316  
FAX 079-232-7306  
HP <http://www.koudera-herb.com/>  
事業内容 ハーブの生産・加工、関連商品卸・販売、  
ハーブガーデン、食養生レストランの運営  
設立 2001年(創業1984年)  
資本金 1000万円  
売上高 1億3000万円  
従業員数 5名、パート20名



インターンシップ  
随時受け付け。詳細  
は問い合わせを。



姫路市  
**児島園芸有限会社**



**私たちの思い**

心がけているのは「選ばれる商品づくり」「減り続けている都市型農園を存続、発展させていくことが、結果的に将来の食料自給率のアップにつながる」という使命感を持って取り組んでいます。

**私たちのこだわり**

取引先やお客様の多様なニーズに答えるため、多品目の野菜づくりに挑戦し続けています。主婦がスーパーや直売所で毎日気軽に買える“普段使いの野菜”を、朝収穫して夕方店頭と並び新鮮さでお届けします。

**おもな作物**

葉物野菜(ほうれんそう、こまつな、みずななど)、さといも、なす、えだまめ、ブロッコリー、セロリなど。ルッコラは大手飲食店チェーンと通年契約栽培。ほかに姫路の伝統野菜(網干メロンなど)も。



**生産者**と消費者の距離が近いことを強みに  
「なっば屋こじま」で新鮮・安全・安心な野菜を市民に提供

姫路市南東部、祭りの盛んな「妻鹿(めが)」地区の浜手緑地南側にビニールハウス21棟が立ち並びます。姫路中心部からの通勤圏内に、これだけの規模の都市型農園を運営しているのは「児島園芸」をおいて他に類を見ません。同社では葉物野菜のハウス栽培を中心にやってきましたが、ここでは耕作面積に限界があり、近年では姫路市北西部の林田町に露地栽培を主体に第2農場を運営。生産者と消費者の距離が近いことを強みにニーズに合わせた多品目の野菜を育てています。同社の野菜は、地産地消を掲げ、一定の基準の満たしたものに姫路市が認定する「姫そだち」ブランドばかり。独自ラベル「なっば屋こじま」が貼られた野菜は姫路市民に「安全・安心」と「新鮮なおいしさ」を提供しています。

**外観**



**働く人の INTERVIEW**



岩崎 早敏さん(24歳)

大学で経営学を学び、2018年入社。当初は営業の仕事を目指していましたが、「手に職をつけたい」「農業の将来を担っていきたい」という思いから地元の農業法人を探し、当社に入社しました。野菜栽培を通じて自分の手で価値を作り上げることにやりがいを感じます。



村山 昴汰朗さん(18歳)

工業高校ではクルマ関係のものづくりに興味がありましたが、縁あって2019年からパートで働いています。気さくで仲のよい雰囲気職場です。作業をやり終えた時や収穫した時の達成感もひとしお。農業のさまざまな体験を積んでいきたいです。

**INTERVIEW OF TOP**



**スキルを身に付けて、農業で生計を立てていく  
そんな意気込みのある若者を応援します**

児島園芸有限会社 代表取締役 **児島 匡さん**

農業ははじめに取り組みれば必ず成果や自身のスキルとなって実を結びます。職業として農業を選択し、生計を立てていこうという若者(新規就農者)を歓迎します。栽培指導はもちろん、資材や農地についてもサポートします。将来独立を目指すことも可能ですよ!

所在地 〒672-8031  
姫路市飾磨区妻鹿1472-3  
電話・FAX 079-246-2117  
事業内容 ハウス葉物野菜、  
露地野菜の生産・販売  
設立 1994年  
資本金 300万円  
売上高 3000万円  
従業員数 3名、  
パート4名

**インターンシップ**  
随時受け付け。詳細  
は問い合わせを。



# 姫路市 有限会社 村上ポトリー



## 私たちの思い

「笑顔と喜びと活気にあふれ、優れたる多くの人々が集い、真に社会に貢献し、食の源である畜産・農林漁業を支え発展させる、日本一の創造力みなぎる企業となる」を企業理念としています。

## 私たちのこだわり

養鶏場事業部と農業事業部の両方を持つ当社だからこそ実現できる「農業畜産連携の循環型農業」をしています。循環型農業で食の源である第1次産業を支え、発展させていきたいと考えています。

## おもな産品

ビタミンEが通常の約3倍もある卵「藤橋家の夢美人」と兵庫県で生産された飼料米をエサとした鶏から生まれる卵「ひょうごの穂々笑実(ほほえみ)」を中心に、年間9,000tを関西一円のスーパーや飲食店へ出荷。



## モーツァルトの音色と良質の飼料米で育てる鶏 まろやかな味わいや栄養価の高い卵を生産

中国自動車道夢前スマートICから車で約5分、山々に囲まれた地に養鶏事業を営む「有限会社 村上ポトリー」があります。大きな特長は、20万羽の鶏にモーツァルトの音色を聞かせてストレスフリーの環境で育てているところ。さらに10年以上前から採卵、洗卵、サイズ選別、パック詰めまでがオートメーション化されています。卵は購入者が初めて素手で触るので極めて衛生的。しかも朝採れた卵はその日のうちに出荷。新鮮で、安全、安心な健康卵を毎日食卓に届けています。また、鶏糞堆肥による土づくりから育まれる飼料米を鶏のエサにすると、いう農業畜産連携の環境に優しい循環型農業も実現しています。



## 外観



## 働く人の INTERVIEW



唐津 茉歩さん(25歳)

兵庫県立農業大学校を卒業後、2015年入社。鶏の体調管理を担当しています。一羽一羽を目で見て、匂いをかいで、五感による注意深い観察で病気の早期発見に努めています。



岩波 希良々さん(21歳)

兵庫県立農業高等学校から2017年入社。卵をパッキングする機械のオペレーターを担当しています。現場は外国人の実習生も多く、みんな仲良く笑いが絶えない元気な明るい職場です。

## INTERVIEW OF TOP



## 笑顔が絶えない働きやすい職場で活躍しませんか？

有限会社 村上ポトリー GPセンター長 森本 晃平さん

若者が多く活気ある職場です。一人ひとりがやりがいを持って、笑顔と健康を食卓へお届けできるように最良の卵づくりに取り組んでいます。また、人間関係が良好で、関連会社の若い社員と情報交換をしたり、活動と一緒にすることも多々あります。

所在地 〒671-2103  
姫路市夢前町前之庄1627  
電話 079-336-1505  
FAX 079-336-3820  
HP <https://fujihashiya-murakami.com/>  
事業内容 養鶏業、鶏卵販売、飼料米・食用米の生産販売  
設立 1988年  
資本金 1000万円  
売上高 18億7000万円  
従業員数 10名、パート22名、外国人実習生10名



インターンシップ  
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



# 神崎都市川町 有限会社 環境微生物研究所



## 私たちの思い

地域農業の担い手として、安心して任せてもらえる法人を目指してしています。県外の先進地域に研修に行くなど、持続的農業の発展のため情報収集や体制づくりに努めています。

## 私たちのこだわり

隣接する「ひまわり工房」で、6次産業のお弁当や総菜を加工販売しています。地域の老人会や各種団体の集いに配達するなど、地域活性化の取り組みに貢献しています。

## おもな作物

加工用米(日本晴)を年間18t、卸業者と農家グループ「大地の会」へ。もち米年間20tと米粉用の米(ヒノヒカリ)9tを加工業者へ。麦年間10tはJAへ。大豆と小豆の年間2tは契約栽培。キャベツ年間8t、アスパラ年間1tは直売所へ。



## 外観



## 「A-GAP」の取得で国際基準の 安全性、食味、環境保全を証明

1999年法人設立当初、村田敏朗代表は自然界に存在する微生物を利用して環境に優しい農業を実践しようと法人名を「環境微生物研究所」と名付けました。EM菌やラクトバチルス菌などの微生物資材で試行錯誤を繰り返しながら、現在は、緑肥の「ヘアリーベッチ」を施すことで、根粒菌が増殖し栄養に富んだ土づくりができるという農法を採用しています。より良い農業を目指す村田代表の志は高く、今年8月には、食品安全、労働環境、環境保全を実践する優良企業に与えられる世界共通ブランド「A-GAP(アジアギャップ)」を取得。安全安心な作物と地球にやさしい農法で、地域農業の未来を守っています。

## 働く人の INTERVIEW



村田 匡兼さん(34歳)

兵庫県立農業大学校を卒業し、農機メーカーで働いていましたが、2017年父が経営する当社に入社しました。主にオペレーターの作業を担当し、トラクターやコンバインなど農機具の整備もしています。近平地区では、高齢化と後継者不足による問題が深刻です。若い人が魅力を感じる農業を実践していきたいです。

## INTERVIEW OF TOP



## 常にチャレンジしていける 人材を求めています

有限会社 環境微生物研究所 代表取締役 村田 敏朗さん

全ての挑戦には、成功も失敗もないと思っています。我社で働く人は、常に新しいことにチャレンジして、自己成長と共に地域農業の発展を目指してほしいです。そのために農業人として一人前に成長する学びを身に付けてもらえるようバックアップは惜しみません。農業にしっかり向き合い、可能性を広げて取り組んでいきたいという人を待っています。

所在地 〒679-2327  
神崎都市川町近平59  
電話 0790-26-2879  
FAX 0790-26-1211  
事業内容 農産物生産販売  
設立 1999年  
資本金 400万円  
売上高 3800万円  
従業員数 1名、  
パート2名

インターンシップ  
随時受け付け。詳細  
は問い合わせを。



赤穂市

# 株式会社 デイリーエッグ



## 私たちの思い

多様化する日本の食生活の中にあって、鶏卵は欠かすことのできない食産物です。安全で高品質な卵を安定的に供給するという使命感をもって、おいしさの笑顔あふれる食卓に貢献します。

## 私たちのこだわり

岡山農場(育成・育雛)、赤穂農場(集卵・出荷)、堺工場(液卵製造)の3拠点を有し、ヒナから成鶏、集卵、加工に至るまで一貫した生産システムを可能にしています。

## おもな産品

「ゴマ海草たまご」「赤穂の源」「ココナ」などのパック詰め各種鶏卵を1日約150t生産。ほかに液卵(液卵黄・液卵白など)、鶏糞(袋詰発酵鶏糞)など



## 育成、集卵から出荷まで、一貫した生産システムが生み出す信頼のクオリティ

「デイリーエッグ」本社のある赤穂農場。緑深い自然に囲まれた近代的な鶏舎では約170万羽の鶏を育てています。いち早くインライン方式を導入。鶏舎内で自動的に集められた卵はコンベアで直接GPセンター(洗卵選別工場)に送られ、自動ヒビ検知機などによる厳格な品質管理が行われています。岡山農場ではヒナから成鶏まで育成。優秀な「安心卵」を生み出すため、鶏舎の衛生管理と鶏の健康検査を徹底しています。同社では育雛から出荷まで一貫したトレーサビリティを確立。また、2015年には三重県伊賀市にグループ会社として「伊賀産業株式会社」を設立し、鶏舎での集卵・出荷をスタート。関西にとどまらず、東海・中部エリアにも「安全・安心」そして「新鮮」な卵を食卓に届けています。



## 外観



## 働く人の

## INTERVIEW



三幣 真弘さん(21歳)

兵庫県立農業大学卒業、2019年入社。営業を担当。もともと鶏に興味があり、同校の派遣実習で当社で集卵などの業務を体験。職場の人たちが明るく、人間関係を大事にする社風が気に入りました。大手取引先との営業は大変ですが、商品を全国区ブランドにしていきたいです。



四之宮 明さん(21歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科を卒業して2016年に入社。高校の授業で鶏や卵に興味を持ち、見学実習で当社を訪れたのがきっかけです。鶏舎の管理を担当し、最近では外国人実習生の指導もしています。小さなことでも「声かけ」や「助け合い」を忘れずがんばっています。

## INTERVIEW OF TOP



## 生まれたてのクオリティが基本です

株式会社 デイリーエッグ 本社 赤穂農場 農場長 長尾 智さん

私たちは健康な鶏を管理し、新鮮な卵を毎日生産しています。飼養管理の結果に鶏たちも正直に反応し、そこに生き物相手の仕事ならではの面白さや魅力があります。鶏の健康、成績を考えながら取り組み、飼養管理技術を重ねることで、さまざまな分野においてオールラウンドに自分を進化させることができる職場です。デイリーエッグで進化する養鶏業界の最先端と一緒に歩みましょう。

所在地 〒678-1181  
赤穂市東有年1650  
電話 0791-49-2858  
FAX 0791-49-3668  
HP <http://www.dailyegg.com/>  
事業内容 養鶏業、鶏卵販売、  
液卵・肥料の製造販売  
設立 1960年  
資本金 6000万円  
売上高 140億円  
従業員数 180名  
(全拠点正社員数)



インターンシップ  
随時受け付け。詳細は  
問い合わせを。



赤穂市

# 有限会社 米ログリーンナーセリー



## 私たちの思い

お客様や取引先から「どんな苗でも揃っている米ログリーンナーセリー」と言われるように、多種多様な苗をひとつひとつ同じ品質で生産できるように、従業員全員で努力しています。

## 私たちのこだわり

特に花や野菜などの苗栽培では、毎年継続して同品質の商品を出荷できるように、毎日の気象条件や栽培記録データをしっかりと管理、蓄積しています。

## おもな作物

花苗、野菜苗合わせて200品目を年間250万本生産。ねぎ、たまねぎ苗同1,100万本。米はコシヒカリ、クニヒカリ、ヒノヒカリなど約30t。さつまいも約5tなど。



## 花苗・野菜苗を中心に、稲作で地域農業に貢献 長く働きやすい職場環境づくりにも注力

米ロ農園から「米ログリーンナーセリー」として1995年に法人化。総合園芸会社へ飛躍させた先代を受け継ぎ、現在同社では事業の多角化と人材の育成に重点を置いた農業経営を行っています。主力商品は約200品目におよぶ花苗や野菜苗。自社直営店「ドリーム・カントリー」のほかホームセンターや種苗店へ年間約250万本を出荷しています。約10haの農地では米やさつまいもなどを栽培。6次産業化を念頭にさつまいもを「干し芋」に加工し、JA直売所や直営店での販売にも着手しています。地元木津地区の農作業受託（稲作）では地域農業を持続させる使命感を持って米づくりにも全力を注いでいます。

## 外観



## 働く人の INTERVIEW



黒田 大智さん(23歳)

兵庫県立農業高等学校卒業、2017年入社。学生時の1日体験で、米から野菜・花苗など幅広く事業を展開していることに魅力を感じ入社しました。社長の指導は厳しいですが、私のことを思っていて言ってくれているので、毎年成長できていることを実感しています。



島田 安里子さん(41歳)

もともとは直営店の常連客だった私。「花苗づくりを自分もしてみたい」と思いパートとして入社しました。子育て中ですが、勤務時間の希望を聞いてもらえるので助かっています。長く働き続けたいです。

## INTERVIEW OF TOP



### 働きやすい職場環境を整えて 継続して良質な商品をつくり続ける

有限会社 米ログリーンナーセリー 代表取締役 米ロ 彰さん

栽培記録を丁寧に蓄積し、次の栽培に生かすことで、毎年品質が変わることのない良質な苗や農産物をつくり続けることが会社の信用につながります。農作業や園芸には経験を積んだ人材が欠かせません。当社では一人ひとりの希望に合わせた勤務時間を組み、働きやすい環境を整えています。インターンシップ歓迎します。実習生としてぜひ体験に来てください。

所在地 〒678-0165  
赤穂市木津334  
電話 0791-48-0786  
FAX 0791-48-1184  
事業内容 花苗、野菜苗、米の生産・販売・卸苗の直営店、農家レストランの経営  
設立 1995年  
資本金 500万円  
売上高 1億8000万円  
従業員数 9名、常勤パート26名

インターンシップ  
随時受け付け。詳細  
は問い合わせを。



相生市  
**株式会社 百姓**



**私たちの思い**

「安全で、自分がおいしいと感じること」を基準にすべての作業に手を抜かず、誠実なお米・野菜づくりを心がけています。「土から育てる」ことを大切に、農業に頼らない農業を目指しています。

**私たちのこだわり**

自家製たい肥にこだわっています。米ぬかや籾殻のほか、近隣農家から牛糞やしいたけ廃菌床を譲り受け、自社内で1年間発酵。すべての田に散布しています。

**おもな作物**

米(コシヒカリ・ミルキーQueen・夢ごち・キヌヒカリ・ヒノヒカリ・きぬむすめ・日本晴・はりもち)や大豆・小豆、だいこん・はくさいなど旬の野菜をインターネット通販や飲食店へ直販。相生市の学校給食への提供もしています。



**土** から「おいしい」を育む農を  
自慢の米・野菜を全国の消費者へ販売

「百姓の農作物はちょっと土臭い」。そう言われるほど土の栄養をたっぷりと吸い込んだ作物を「百姓」では「おいしさの証」と考えています。地元農家から借り受けた約38haの耕地で多様な作物を栽培。土にこだわり丁寧につくられた米や野菜は評判を呼び、インターネット通販で購入する全国各地のお客様がほとんどリピーターとなっていることがその証です。2008年に上郡町・相生市の土地利用型農家の若手後継者6名とともに「真心ファーマーズ」を結成。現在7社が共同でリース農機具をシェアしたり、環境にやさしい農業生産の研究などを行っています。

**外観**



**働く人の INTERVIEW**



**松田 龍児さん(25歳)**  
大学を卒業し、しばらく営業の仕事に従事した後、入社しました。米や野菜の品種ごとの栽培方法を毎日指導を受けながら実践しています。社長の「体と時間の使い方は自分で考えて行動する」という方針のもと、経験を重ねながら自分なりの働き方が

実現できることにやりがいを感じています。将来の夢は「百姓」の米・野菜を使った自分の料理店を持つことです。

**INTERVIEW OF TOP**



**土も、米も、野菜も。  
育むすべてがHappy Seed!**

株式会社 百姓 代表取締役 **小倉 篤さん**

一つひとつの作物を「ウチの子たち」と呼んで丁寧育てています。作物の「おいしさ」の基本は「土づくり」から。天然素材を使った自家製たい肥を全ての耕作田で使っています。食べる人に幸せを感じてもらえるような「おいしい米づくり」を一緒にがんばっていきましょう。

所在地	〒678-0092 相生市矢野町上土井938-1
電話・FAX	0791-29-1868
HP	フェイスブック「株式会社 百姓」で検索
事業内容	水稲、豆類、旬野菜の生産・販売
設立	2009年
資本金	300万円
売上高	8000万円
従業員数	2名

**インターネットショップ**  
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



佐用郡佐用町

# 東徳久(ひがしとくさ)地区農事組合法人



## 私たちの思い

地域の農業を守り、後継者を育てたいという思いで農業に取り組み、水稻をはじめ、佐用町のシンボル・ひまわり、佐用もち大豆などの地元の特産品もつくっています。

## 私たちのこだわり

緑肥作物のヘアリーベッチを利用した土づくりを行い、化学肥料・農薬の使用をできるだけ抑えて栽培しており、エコファーマー※に認定されています。

※環境にやさしい農業で認定を受けた生産者

## おもな作物

水稻はコシヒカリ、酒米(兵庫錦等)。ひまわり、薬草、麦、大豆、野菜(キャベツ、はくさい)を栽培しています。



## 20歳代を中心に営農 責任ある立場でやりがいを感じる

「佐用町南光ひまわり祭り」の会場の一つ、東徳久(ひがしとくさ)地区。「東徳久地区農事組合法人」はこの徳久地区の農家が、1996年に15名(理事13名、監事2名)で営農組合として立ち上げ、2002年に農事組合法人になりました。

後継者育成に積極的に取り組み、現在は水稻約43ha、野菜6.5haの耕地を、20歳代の男性従業員4名が中心になって作業しています。センター長や水稻主任などの役職がそれぞれにあり、責任ある仕事を任せられ、「やりがい」に繋がっています。2019年11月にはベトナム人女性2名が研修生として入社します。

## 外観



## 働く人の INTERVIEW



西山 毅哉さん(23歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科の校外現場実習ではここでのお世話になりました。入社6年目。2019年センター長になり、皆が働きやすいよう心がけて、現場を取り仕切っています。



下村 和也さん(22歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科卒業、入社4年目です。水稻主任としてライスセンターを任されています。田植えや稲刈りのときの機械の操作が楽しいです。将来は独立も考えています。

## INTERVIEW OF TOP



### 販路を海外へも展開、従業員の福利厚生に積極的

東徳久農事組合法人 組合長 鎌井 宏之さん

法人として販路の確保が大切と、「株式会社 神明」をメイン取引先として販路を香港など海外へも増やしています。

2019年G-GAPを取得。農産物検査員や大型特殊免許(農耕用限定)、狩猟免許など従業員の資格取得の推進をはじめ、土・日曜を基本にした休みの取得、従業員宿舍の用意など、福利厚生に努めています。

所在地 〒679-5213  
佐用郡佐用町東徳久2358  
電話 0790-78-1970  
FAX 0790-78-1971  
事業内容 農産物の生産・販売  
設立 2002年  
資本金 113万円  
売上高 1億円  
従業員数 24名

**インターンシップ**  
兵庫県立佐用高等学校農業科学科から毎年受け入れ



佐用郡佐用町  
**株式会社 みかづきe**



**私たちの思い**

日本の食文化は農業が作るという思いで、安全でおいしい農作物を作っています。古き良き日本の食を提案したいと、農作物の加工品を姫路城前のセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』で販売しています。

**私たちのこだわり**

土づくりは健康づくりと考え、化学肥料・農業を使わず、発酵鶏糞を使用。除草剤は年に1回だけとこだわり、栄養価の高い作物を栽培しています。

**おもな作物**

水稲はコシヒカリ、もち米、酒米(兵庫錦)。大豆、小豆を栽培し、加工品(もち、おはぎせんべいなど)を作っています。



**三 日月地区で水稲中心に小豆・大豆を栽培  
姫路でセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』を経営**

「みかづきe」はJR姫新線三日月駅にほど近く、かつての佐用郡三日月町で水稲を中心に大豆・小豆を栽培しています。代表取締役・三木伸雄さんは「自分でモノを作りたい」と百貨店から転身し、義父が設立した同社に2006年入社し就農しました。

パイヤーの経験を生かし、6次産業化を積極的に展開。酒米(兵庫錦)は地元酒造メーカーと提携し、4,000本限定の日本酒「龍力-三日月-」に、もち米・小豆・大豆は和菓子に加工し、自社が姫路城前で経営するセレクトショップ『重次郎-JYUJIRO-』で販売。コシヒカリは社会福祉法人や地元企業、レストランへ直売と、ほとんどを自主流通させています。

**外観**



**働く人の INTERVIEW**



長谷川 永さん(20歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業、入社3年目です。祖父母の畑作を見て、どういう仕組みで作物ができるのか興味を持ち、進学しました。学校で勉強したことを三木さんに進言することもあるし、個人の判断で作業することが多く、やりが

いを感じます。『重次郎-JYUJIRO-』部門ではポン菓子製造を任されています。農業と加工・販売の一貫経営が、自分には魅力。農業は外の作業で体力が付き、農繁期・農閑期のメリハリがあるのも、いいと思います。

**INTERVIEW OF TOP**



**農業をビジネスとして成り立たせたい  
国道179号沿いの農家が連携**

株式会社 みかづきe 代表取締役 **三木 伸雄さん**

6次産業化は昔から農家が当たり前に行っていたこと。農業をビジネスとして成り立たせるために、地域と連携してモノづくりをしたい。国道179号沿いの農家・畜産農家が連携して、地元スーパーで作物や加工品の販売をしています。佐用高等学校で臨時講師として就農講座を行っています。

所在地	〒679-5131 佐用郡佐用町上本郷363
電話・FAX	0790-79-9270
事業内容	農産物の生産・販売、 加工品の直売
設立	2002年
資本金	50万円
売上高	2900万円
従業員数	3名

**インターンシップ**  
夏休みに高校生を毎年受け入れ。詳細は問い合わせを。



佐用郡佐用町  
**株式会社 山本宮農**



**私たちの思い**

昼夜の気温差が大きく、霧が多い気候を味方に、酒米を中心とした米づくりをしています。兵庫県が誇る酒米の生産を、地域で継続していきたいとがんばっています。

**私たちのこだわり**

酒米は背が高く稲が軟らかいので、倒れないように水の管理、追肥が大切です。契約収量をきちんと確保できるよう、丁寧に栽培しています。

**おもな作物**

水稲は酒米(白鶴錦)、コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ、加工米、うるち米、野菜はブロッコリー、ロマネスコ、キャベツ、はくさい、ひまわり、そばと多品目栽培しています。



**白鶴錦を地域の契約農家と一緒に栽培  
親子三代で佐用町の農業を盛り上げる**

兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する佐用町で、酒米を中心に水稲と野菜栽培を行う「山本宮農」。古くからの稲作農家でしたが、代表取締役の山本巖さんの代から酒米の栽培を始めました。2010年からは、地域の酒米栽培農家20数軒と連携して、灘の酒造メーカー白鶴酒造が独自開発した「白鶴錦」の契約栽培を行っています。どの農家も、酒米の大生産地である兵庫ブランドを守る気概を持って栽培しています。

2014年にJAで働いていた娘婿の衣本貴浩さんが就農し、孫の衣本優時さんも2018年に入社。2017年に法人化し、今は親子三代で佐用町の農業を盛り上げます。

**外観**



**働く人の INTERVIEW**



衣本 優時さん(21歳)

兵庫県立農業大学校を2018年3月に卒業後、近隣の大型農家で基礎を学んで、9月に入社しました。祖父・父の姿を見たり、少し手伝ったりしていたので、進路を決めるときに農業をやってみようと思い、農業大学校に進みました。

米づくりのほか、祖父の勧めで、野菜づくりに挑戦しています。稲作の後は冬野菜の定植を始めています。消費者に美味しいと言ってもらえる野菜をつくりたい。学校や他の農家で学んだことは、実際の仕事でも役立つことが多いですよ。

**INTERVIEW OF TOP**



**機械化で省力化し労働環境改善を  
稲作の農閑期には多品目の野菜栽培も**

株式会社 山本宮農 代表 山本 巖さん

従業員がきちんと休みが取れる職場にしたいと、約10年前から機械化にも積極的に取り組み、省力化を進めています。年間を通して仕事があることも大切で、多品種の野菜の栽培も行い、冬野菜の栽培は若い2人に任せています。

所在地	〒679-5205 佐用郡佐用町安川896
電話	0790-78-1087
FAX	0790-78-1085
事業内容	農産物の生産、販売。農作業の受託
設立	2017年
資本金	500万円
売上高	4000万円
従業員数	6名

**インターンシップ**  
随時受け付け。詳細は問い合わせを。